

令和7年度

# 「運営に関する計画」

最終反省

大阪市立北稜中学校

令和8年2月

大阪市立北稜中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・令和6年度の全国学力学習状況調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答した生徒の割合は69.1%であった。
- ・令和6年度の校内調査において、不登校生徒の在籍生徒に対する比率は、7.8%であった。
- ・令和6年度の全国学力学習状況調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は34.1%であった。
- ・令和6年度の中学生チャレンジテストにおける国語の平均点の対府比は、現2年生が1.16、現3年生が1.16で、数学の平均点の対府比は現2年生が1.13、現3年生が1.27であった。
- ・令和6年度の大阪市英語力調査におけるC E F R A 1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合は、87.9%であった。
- ・令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の質問に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合は、62%であった。
- ・令和6年度の校内調査における「ICT機器を活用した授業はわかりやすい」の質問について、肯定的に答えた生徒の割合は88%であった。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ・全国学力学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 80%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・全国学力学習状況調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 30%以上にする。
- ・中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比について、いずれの学年も 1.20 以上を達成する。
- ・大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する 中学 3 年生の割合（4 技能）を 85%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 55%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ・校内調査における「I C T 機器を活用した授業はわかりやすいですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上とする。
- ・夏期休業中に 5 日、冬期休業中に 2 日間の学校閉庁日を設けることで、教職員の年休取得率を高める。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ・全国学力学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 75%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

### 学校の独自設定

- ・生徒アンケートにおける「学校での毎日が楽しい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 85%以上かつ、「よくあてはまる」と答える生徒の割合を 45%以上とする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・生徒アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり発表することがある」の項目に対して、最も肯定的な「よくあてはまる」と回答する生徒の割合を、50%以上にする。
- ・中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.04 ポイント向上させる。
- ・大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 80%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 53%以上にする。

### 学校の独自設定

- ・生徒アンケートにおける「先生は、教え方をいろいろ工夫している」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 90%以上かつ、「よくあてはまる」と答える生徒の割合を 50%以上とする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）
- ・校内調査における「ICT 機器を活用した授業はわかりやすいですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上とする。
- ・夏期休業中に 5 日、冬期休業中に 2 日間の学校閉庁日を設けることで、教職員の年休取得率を高める。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

- 令和7年度の全国学力学習状況調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答した生徒の割合は81.8%(R6:69.1%)であった。なお、肯定的な回答をした生徒の割合が98.6%であった。次年度も道徳をはじめ全ての教育活動を通して、いじめが絶対にいけないことであることを理解させたい。
- 令和7年度の校内調査において、不登校生徒数は1年が7名、2年5名、3年10名で、不登校生徒の在籍生徒に対する比率は4.8%(R6:7.8%)で改善されたが、依然として大きな課題である。
- 令和7年度の校内調査において、前年度不登校生徒20名のうち10名の改善があった。
- 生徒アンケートにおける「学校での毎日が楽しい」の項目について、今年度は「学校行事は楽しみで、自分の力を発揮できている」の項目に置き換えて分析する。肯定的に答えた生徒の割合は93.3%であった。内、「よくあてはまる」と答えた生徒の割合は59%であった。大部分の生徒が学校行事を楽しみに前向きに取り組んでいる。
- 中学生チャレンジテストにおける、中3生の国語および数学の平均点の対府比の変化は、国語1.16(R6)→1.11(R7) 数学1.27(R6)→1.16(R7)と昨年を少し下回った。どちらの教科も、目標値である「0.04ポイント向上」は達成できなかったが、ほとんどの生徒は進路選択に向け意識を高めている。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)は、94%で英語学習での意識の高さがうかがえる。
- 生徒アンケートにおける「先生は、教え方をいろいろ工夫している」の項目に対して、肯定的に回答した生徒の割合は94.0%で、そのうち「よくあてはまる」と回答したのは43.8%だった。目標値の「肯定的90%以上かつ、最肯定50%以上」は達成できなかった。
- 校内調査における「ICT機器を活用した授業はわかりやすいですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は88%(R6:88%)で高い数値となり、さらなる研究の推進が必要である。
- 学校閉庁日やノー残業日の取り組み、およびテレワークの活用により、教職員の意識改革が進んでいる一方、超過勤務が昨年度と比較し減少しているが、じゅうぶんに減少しないのが現状である。文部科学省が指示する施策に対応するために労力を費やされることも多々ある現状、校務における合理化を図り、働き方改革を進めていく必要がある。

## 大阪市立北稜中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を75%以上にする。</li> <li>・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</li> <li>・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</li> </ul> <p><b>学校の独自設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートにおける「学校での毎日が楽しい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を85%以上かつ、「よくあてはまる」と答える生徒の割合を45%以上とする。</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【(1)安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校対策の一方策としてのリソースルームを利用している生徒にとって、『安心できる居場所』であるための物品を整備するとともに、インクルーシブ教育の推進を図る。</p>	B
<p>指標</p> <p>不登校傾向にある生徒の登校状況を改善する。</p>	
<p>取組内容②【(2)豊かな心の育成】</p> <p>「いじめは人間として絶対に許されない」との強い認識のもと、道徳教育はじめ、あらゆる教育活動を通して個性や差異を尊重する態度を育てる教育を推進する。</p>	B
<p>指標</p> <p>「いのちについて考える日」を設け、各学年で自他のいのちを大切にするための取り組みを、昨年度からブラッシュアップした状態で行う。</p>	

<p>取組内容③ 【(1)安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>教育相談（個人面談）・いじめアンケート等により、個々の生徒の現状を把握するとともに、SSWやスクールカウンセラー等関係諸機関との連携を綿密に行い、スクリーニング会議を充実させる。</p>	<b>B</b>
<p>指標</p> <p>いじめアンケートを各学期に1回、教育相談を年に2回行う。 スクリーニング会議Ⅰを毎月、会議Ⅱは学期に1回行う。</p>	
<p>取組内容④ 【(1)安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>泊をとまなう行事における生徒の健康面（感染症・食物アレルギー・怪我等）の安全を確保する。</p>	<b>C</b>
<p>指標</p> <p>泊行事への看護師の派遣を要請する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p><u>年度目標について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度の全国学力学習状況調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答した生徒の割合は81.8%(R6:69.1%)であった。なお、肯定的な回答をした生徒の割合が98.6%であった。次年度も全ての教育活動を通して、いじめが絶対にいけないことであることを理解させたい。</li> <li>・令和7年度の校内調査において、不登校生徒数は1年が7名、2年5名、3年10名で、不登校生徒の在籍生徒に対する比率は4.8%(R6:7.8%)であった。</li> <li>・令和7年度の校内調査において、前年度不登校生徒20名のうち10名の改善があった。</li> </ul> <p><u>学校の独自設定</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートにおける「学校での毎日が楽しい」の項目について、今年度は「学校行事は楽しみで、自分の力を発揮できている」の項目に置き換えて分析する。肯定的に答えた生徒の割合は93.3%であった。内、「よくあてはまる」と答えた生徒の割合は59%であった。</li> </ul> <p><u>取組内容について</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 不登校傾向にある生徒を中心に、学校の居場所としてリソースルームの利用による、登校支援を行うことができた。利用している生徒の情報共有も全教職員間で行っている。また不登校支援についての教職員研修を実施し、多様な生徒支援の在り方について理解を深めることができた。</li> <li>② 本校独自の「いじめ・いのちについて考える日」を設け、1学期間に3回、独自の教材を用いて生命尊重について考えを深める道徳授業を行った。</li> </ol>	

- ③ 「こころの天気」を活用し、生徒の毎日の心的状況の把握に努めている。長期休業中においては学習者用端末を自宅に持ち帰らせることで、休業中にも相談申告機能を利用できるようにした。いじめアンケートについては各学期に1回実施し、スクリーニング会議については、Ⅰ、Ⅱともに計画通り実施することができている。
- ④ 1年生の宿泊行事が、関西万博の影響でバスの予約が困難だったため、来年度への延期となった。来年度実施予定。

#### 次年度への改善点

- ・ リソースルームの活用については、利用生徒がそれぞれの目標にむけて充実した活動が行えるように運営を進めていく必要がある。
- ・ いじめについては、絶対に許されないことであるという強い前提のもと、教育活動において、いじめ未然防止について学習する機会を設ける必要がある。
- ・ 教職員研修を定例化し、教職員の不登校傾向にある生徒への理解を深め教育支援につなげていく必要がある。
- ・ 「いじめ・いのちについて考える日」の取り組みは各学年に合わせた独自教材はあるものの、その時の学年の状況等に合わせて教材内容を必要に応じてブラッシュアップしてからの実践が求められる。

## 大阪市立北稜中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり発表することがある」の項目に対して、最も肯定的な「よくあてはまる」と回答する生徒の割合を、50%以上にする。</li> <li>中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.04ポイント向上させる。</li> <li>大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を80%以上にする。</li> <li>年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を53%以上にする。</li> </ul> <p><b>学校の独自設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートにおける「先生は、教え方をいろいろ工夫している」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を90%以上かつ、「よくあてはまる」と答える生徒の割合を50%以上とする。</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑤【(4)誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>言語活動の充実を図るため、図書室の学習環境の整備を行う。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <p>図書室の来館者数を前年度より増加させる。</p>	B
<p>取組内容⑥【(5)健やかな体の育成】</p> <p>体力向上に向けた取り組みを推進するため、体育用具の整備を行う。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <p>全国体力、運動能力・運動習慣等調査における体力合計点を全国平均以上にす</p>	B

る。	
取組内容⑦【(4)誰一人取り残さない学力の向上】 数学・理科・英語の3教科において、習熟度に応じた授業を実践する。	C
指標 上記3教科のチャレンジテスト（plus）において、正答率が20%に満たない生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、前年度より減少させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><u>年度目標について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり発表することがある」の項目に対して、最も肯定的な「よくあてはまる」と回答した生徒の割合は、51.3%だった。目標値の「50%以上」を達成した。</li> <li>・中学生チャレンジテストにおける、中3生の国語および数学の平均点の対府比の変化は、 国語 1.16(R6)→1.11(R7) 数学 1.27(R6)→1.16(R7)だった。 どちらの教科も、目標値である「0.04ポイント向上」は達成できなかった。</li> <li>・大阪市英語力調査におけるC E F R A 1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）は、94%だった。目標値の「80%以上」を上回った。</li> <li>・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答した生徒の割合は51.5%だった。目標値の「53%以上」をわずかに下回った。</li> </ul> <p><u>学校の独自設定</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートにおける「先生は、教え方をいろいろ工夫している」の項目に対して、肯定的に回答した生徒の割合は94.0%で、そのうち「よくあてはまる」と回答したのは43.8%だった。目標値の「肯定的 90%以上かつ、最肯定 50%以上」は達成できなかった。</li> </ul> <p><u>取組内容⑤</u>について</p> <p>今年度 12 月末までの来館者延べ人数は2761名。昨年度の2635名から2761名（+126名）に来館者数が増加した。元気アップさんのおみくじイベントやクイズ大会、図書館司書の仲さんによるブックフェスタ等、生徒が興味関心を持つイベントを行い来館者数が増加したと考える。</p> <p><u>取組内容⑥</u>について</p> <p>体育大会に向けてグラウンドの整備を実施した。また、跳び箱の張替えなど必要な補修や物品の購入を行い、体力向上に向けて整備を行った。</p> <p>全国体力、運動能力・運動習慣等調査における体力合計点は男子が全国平均 50 点に対して 47.1 点。女子が全国平均 50 点に対して 48.5 点と下回った。</p>	

#### 取組内容⑦について

英語科で12月に習熟度別授業を実施し、少人数クラスでの授業を行った。  
チャレンジテストの指標に関して、中3生の正答率が20%に満たない生徒の割合は、  
数学1%(R6)→2%(R7) 理科2%(R6)→8%(R7) 英語1%(R6)→5%(R7)であった。  
いずれも前年度より減少させることができなかった。それぞれの教科に対して  
困り感のある生徒が増えていることが分かる結果となった。

#### 次年度への改善点

目標値を達成できなかったものもあったが、生徒アンケートの授業に関する項目の  
肯定的回答は高水準であり、チャレンジテストの結果を見ても大阪府平均と比べて高い  
学力を身に着けている生徒が多いことがわかる。  
一方で、特定の教科に対して苦手意識を持ち、思うように理解が進んでいない生徒も  
一定数いることが分かる。一人ひとりに合わせたきめ細かい指導を次年度以降も継続し、  
「誰一人取り残さない学力の向上」を目指して授業を計画していく。

(様式2)

大阪市立北稜中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【学びを支える教育環境の充実】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)</li><li>校内調査における「ICT機器を活用した授業はわかりやすいですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上とする。</li><li>夏期休業中に5日、冬期休業中に2日間の学校閉庁日を設けることで、教職員の年休取得率を高める。年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を77%以上にする。</li></ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容⑧【(6)教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ICTを活用した教育を推進するため、デジタル教材やデータを用いた個に応じた学習を促進する。	B
指標 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)	
取組内容⑨【(7)人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 生徒の安心・安全を守る教員の資質を高める。	B
指標 安心・安全を守る教員の資質を高める研修を実施する。	
取組内容⑩【(7)人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 「ノー残業デイ」の定着等の取り組みにより、職場環境の充実を図る。	B
指標 夏季休業中に5日、冬季休業中に2日間の学校閉庁日を設定する。	

<p>「弾力的運用」を小学校と調整し活用する。 部活動の完全下校時刻見直しの検討を行う。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p><u>取組内容⑧について【ICT 担当】</u> 12 月時点での累計は 78.2%と高い水準を維持している。「毎日使うこと」を当たり前として、家庭で充電し、学校と家庭の両方で使うことをこれからも促進したい。</p> <p><u>取組内容⑨について【健教部】</u> 初任・転任者を対象としたエピペン研修を実施、今後はアレルギー対応システムの導入に伴う研修などを検討している。引き続き、安心・安全を守るための研修を継続していく。</p> <p><u>取組内容⑩について【管理職】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏季休業中に 5 日、冬季休業中に 2 日学校閉庁日を設け、テレワークの有効活用とともに教職員の年次有給休暇の取得を進めた。</li> <li>・ ずらし勤務の推奨・代休の設定・活用により、教職員の時間外勤務時間の削減を行ってきた。少しずつ定着してきており、教職員の時間外勤務時間の削減につながっている。</li> <li>・ ノー残業デイを設定しているものの効果が表れているとは言いにくい結果である。今後はさらなる定着のための工夫が必要である。</li> </ul>	
<p>次年度への改善点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も定期的に研修を実施し、安心・安全を守るための教員の資質の向上に努めたい。</li> <li>・ 教職員の「働き方改革」が進められている中、教職員の意識改革をどのように図るかは大きな課題である。それに伴い、行事の精選や会議日時の設定、カリキュラムの変更を検討していく必要がある。</li> </ul>	

## 令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪府立北稜中学校協議会

## 1 総括についての評価

令和7年度の学校運営について、自己評価結果をもとに協議会として評価を行った。いじめに関する調査では最肯定「思う」が81.8%と大幅に向上し、不登校比率も7.8%から4.8%へ改善された。英語力調査ではA1レベル以上が94%と目標を大きく上回る等、多くの取組において成果が見られた。全体として、安全・安心な学校づくりと学力向上の両軸で着実に前進しており、学校の取組姿勢を高く評価する。今後は、チャレンジテストで苦戦した層へのきめ細かな支援や、働き方改革の実質的な推進に期待したい。

## 2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】いじめ最肯定75%以上、不登校比率の改善、前年度不登校生徒の改善増

いじめに関する最肯定回答が81.8%と目標の75%を大きく上回り、肯定的回答が98.6%に達したことは、道徳教育や「いじめ・いのちについて考える日」の取組の成果である。不登校比率が7.8%から4.8%へ改善され、前年度不登校20名中10名の改善があったことは、リソースルームの運営やスクリーニング会議の充実によるものと評価できる。学校行事の肯定的回答93.3%は、生徒の学校生活への満足度の高さを示している。今後不登校対策の一層の充実を期待する。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】【学びを支える教育環境の充実】

英語力調査のA1レベル以上94%、「授業で自分の考えをまとめたり発表」の最肯定51.3%等、多くの指標で目標を達成した。一方、チャレンジテストの対府比は国語・数学ともに低下し、正答率20%未満の生徒が増加した。ICT活用は高水準を維持している。働き方改革は意識改革が進む一方、超過勤務の十分な削減には至っておらず、引き続きの取組が必要である。

全体として、安全・安心な教育の推進、学力・体力の向上、教育環境の充実のいずれの柱においても、学校は計画的かつ組織的に取り組んでいる。特に、いじめ未然防止のための独自教材の開発や、不登校支援におけるリソースルームの活用、「こころの天気」を通じた生徒理解など、独自性のある取組が多く見られる点を評価したい。

一方、チャレンジテストの対府比の低下や、特定教科に苦手意識を持つ生徒の増加は懸念される。習熟度別授業の拡充や、個々の生徒の学習状況に応じたきめ細かな指導を一層充実させていきたい。

働き方改革については、学校閉庁日の設定やテレワークの活用など制度面での整備は進んでいるが、超過勤務の実質的な削減にはさらなる工夫が必要である。行事の精選や校務の合理化を通じて、教職員が生徒と向き合う時間を確保できる体制づくりを期待する。

地域や保護者との連携を引き続き大切に、「明日も来なくなる学校」の実現に向けて、次年度も継続的な改善を期待する。

## 3 今後の学校園の運営についての意見

学校が掲げる「明日も来なくなる学校」の実現に向け、以下の点について継続的な取組を期待する。不登校対策においては、リソースルームの運営をさらに充実させ、生徒一人ひとりの目標に対応した支援を行っていただきたい。学力面では、苦手意識を持つ生徒への個別最適化された学習支援を強化し、「誰一人取り残さない」理念を具体化していただきたい。教職員の働き方改革については、制度の整備にとどまらず、校務の合理化や行事の精選を通じて実質的な効果を上げていただきたい。